

2019 年 5 月 10 日 記者会見 質疑応答（東京）

発表内容：2019 年 3 月期決算について

日 時：2019 年 5 月 10 日（金） 16 時 00 分～16 時 50 分

場 所：日本銀行 金融記者クラブ（東京）

発 表 者：代表執行役社長 東和浩、代表執行役 福岡聡、執行役 品田一子

【質疑応答】

Q. フィービジネスは順調であるということであったが、今後はどのようにフィー収益を積み上げていくのか、今後の見通しと考えを聞かせてほしい

A. フィービジネスについては、連結フィー収益比率が 30%に達しました。今後はりそなキャッシュレス・プラットフォーム等のキャッシュレスサービスやファンドラップなどの預かり残高を増やしていくことでフィー収益を伸ばしていきたいと考えています。一つ一つの手数料は少なくても、幅広いお客さまとの「うすく・ひろく・ながい」お取引を実現するというストック型フィービジネスの構築を目指しており、特にファンドラップは販売手数料をいただいていないので、残高を増やすことが重要と考えています。また、関西みらいフィナンシャルグループ傘下の銀行のフィー収益比率は 15.7%と相対的に低いことから今後も伸びしろがあると考えています。

Q. メガバンクが店舗の削減等の構造改革をやっているが、りそなはどう対応するのか

A. りそなグループはこれまでも構造改革を継続しておりますが、店舗チャネルはなるべく維持しつつ、一店舗あたりの人員をいかに極小化できるかということに常にチャレンジしていきます。例えば、1店舗の事務量を 2021 年度までに 2015 年度比で半減させ、事務から営業に人員を配置転換する取り組みを行っております。今後は関西みらいフィナンシャルグループとの統合費用が少し増加する可能性はありますが、経費全体でコントロールをしながら、構造改革を進めていきたいと考えています。

Q. 米中貿易摩擦による取引先への影響はどう考えているのか

A. 米中貿易摩擦については全体的に影響を受けているのではなく、電子機器や半導体関連等の業種や商品ごとにまだら模様になってきていると考えております。米中間の交渉に一喜一憂している状況であり、長期化することを懸念しています。

Q. 本日レオパレスの決算説明があった。りそなもレオパレスに対する貸出を行っていると思うが今後の影響について教えてほしい

A. 個別の取引については、お答えすることはできません。また、全体の調査が終わっているわけではないので、その結果をしっかりと待たなければならないと思っています。いずれにしても、入居されている方やオーナー様の不安感が無くなるように（レオパレスには）やっていただきたいと思っています。そういう意味では（りそなと）方向感と同じと思っているので、しっかりお手伝いをさせていただきたいと考えています。

Q. オーナー向け融資等で、業績に対して想定されることは何かあるのか

A. いいえ、まったくありません。

Q. 大手行で営業店の業績評価の見直しが報道されたが、りそなでも検討しているのか

A. 金融商品販売の業績評価については、2016 年度から残高をベースとしたものに切り替えています。昨年度はフィデューシャリーデューティの遵守など、定性的な評価を達成できていない支店は業績評価をしないという評価体系を導入しております。今年度はさらに進展させて短期的な評価と中長期的な評価を1:1とする運営にしています。中長期的な評価というのは、すぐに収益にならなくても、将来の基盤になるお客さまをふやすことなどを指しています。たとえば遺言や事業承継等の信託商品はすぐに収益化するものではありませんが、そのような将来の種を増やす活動を評価していきたいと思っています。

Q. 与信費用の計画が前年度から大きく増加する組立であるが、個別に大きな発生を見ているものがあるのか

A. 組立上、個別に大きな発生を見込んでいるわけではありません。但し、クレジットサイクルの転換を見据え、引当金を見込んでいます。また、個別引当金の戻し入れは減少していくと考えており、結果として与信費用は増加すると考えています。

Q. 経費率が上昇しているのは関西みらいの影響があるのか

A. 関西みらいの影響や経費の増加というよりは、有価証券ポートフォリオの健全化を実施したことで業務粗利益が低下し、経費率が上がったものです。

Q. レオパレスのオーナー向けローンにおける担保の状況はどうなっているのか。また、同社への融資に対しては今後どういう姿勢をとっていくのか

A. オーナー向けの融資については、一般事業法人向けの無担保融資などとは全く性格の違うものであり、保全是高い水準にあると思っています。そういう意味でこのオーナー向けのローンというものは比較的 안전한ポートフォリオだと考えています。個別のお客さまについての融資内容について申し上げることはできませんが、入居者の方やオーナー様の安心できることが一番重要であるという考えは（レオパレスと）同じであると思っており、そのサポートをしていきたいと考えております。

Q. 70 歳まで雇用延長するという報道があったが、今後もこのようなものをやる予定はあるのか

A. 売り手市場の環境を踏まえると長期に継続して働いてもらうことは非常に重要であるため、今後も継続的な取り組みをしていきたいと思っております。例えば、人材育成に注力し社員のプロフェッショナル化を行う教育機関を新たに作ることを検討しています。他にも、従業員応援プロジェクトを始めており、70 歳までの雇用延長や育休の一部有給化、テレワークの拡大、サークル活動の支援、奨学金の返済支援プログラムを開始しており、今後も従業員の働き方に合わせた人事制度の構築を行っていききたいと思っております。

Q. スルガ銀行を買収するという報道についてその後はどうか

A. すでにリリースを出させていただいておりますが、検討しておりません。

以 上